

# Economic Indicators

発表日: 2023年6月15日(木)

## 貿易統計(2023年5月)

～自動車輸出の回復が下支えだが、実質輸出の基調は弱い～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		アジア	
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
22年	1月	▲ 22,201	▲ 9,051	9.5	39.0	▲ 4.6	▲ 1.1	9.7	▲ 10.5	4.7	4.6	20.9	3.8
	2月	▲ 7,115	▲ 10,290	19.1	34.6	2.8	5.0	2.0	6.1	▲ 0.8	6.0	13.0	▲ 5.4
	3月	▲ 4,649	▲ 10,089	14.7	31.9	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.0	2.9	▲ 0.3
	4月	▲ 8,549	▲ 14,778	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.8	▲ 8.2	▲ 8.9	▲ 10.2	5.2	▲ 15.5
	5月	▲ 23,661	▲ 17,930	15.8	48.5	▲ 3.5	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.3	3.1
	6月	▲ 13,750	▲ 19,233	19.2	45.6	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 6.7	2.0
	7月	▲ 14,219	▲ 21,196	19.0	46.9	▲ 2.0	▲ 5.6	17.3	▲ 2.2	2.2	17.5	▲ 4.2	2.2
	8月	▲ 27,904	▲ 22,874	22.0	49.3	▲ 1.1	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	4.0	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,992	▲ 20,062	28.9	45.8	3.8	18.2	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.1
	10月	▲ 21,715	▲ 22,624	25.3	53.6	▲ 0.3	4.7	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.8	6.0
	11月	▲ 20,319	▲ 18,584	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.7	3.2	▲ 4.7
	12月	▲ 14,586	▲ 18,170	11.5	20.8	▲ 7.1	▲ 2.7	10.1	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 5.4	11.2	▲ 10.3
23年	1月	▲ 35,064	▲ 18,134	3.5	17.6	▲ 10.9	▲ 3.4	▲ 4.3	▲ 15.3	▲ 2.3	▲ 10.5	▲ 6.6	▲ 3.1
	2月	▲ 9,199	▲ 12,190	6.5	8.5	▲ 7.9	▲ 1.2	1.4	▲ 12.8	▲ 7.8	▲ 6.3	0.1	▲ 8.7
	3月	▲ 7,588	▲ 12,295	4.3	7.4	▲ 8.2	▲ 9.2	▲ 12.6	▲ 10.7	▲ 2.5	▲ 3.1	▲ 3.6	▲ 0.8
	4月	▲ 4,323	▲ 10,355	2.6	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 5.6	▲ 2.4	▲ 12.6	▲ 0.2	▲ 7.6	▲ 3.6	4.3
	5月	▲ 13,725	▲ 7,778	0.6	▲ 9.9	▲ 6.5	▲ 4.2	0.3	▲ 12.5	▲ 5.1	▲ 4.8	▲ 2.3	▲ 5.7

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○輸入金額は前年比マイナスに転じる

財務省より発表された23年5月の貿易統計では、輸出金額が前年比+0.6%、輸入金額が同▲9.9%、貿易収支は▲13,725億円の赤字(事前予想: ▲13,000億円の赤字)となった。海外経済の減速により輸出金額の伸び悩みが続く一方、資源価格の下落に伴って輸入金額は前年比でマイナス幅の拡大が続いた。輸入金額の減少を主因として貿易赤字は昨年同時期から縮小となった。季節調整値で見ると、輸出が前月比▲3.1%、輸入が同▲5.6%とそれぞれ減少し、貿易収支は▲7,778億円の赤字と前月から赤字幅縮小が続いた。

### ○自動車輸出の回復が下支えに

物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は前月比▲2.2%となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。地域別にみると、米国向けが同▲4.1%(4月: +3.3%)、欧州向けが同+2.4%(4月: +11.4%)、アジア向けが同0.0%(4月: ▲0.8%)、うち中国向けが同▲0.3%(4月: +0.8%)となった。

実質輸出の4-5月平均をみると、1-3月期対比で+1.2%上回っており、4-6月期は2四半期ぶりのプラスに転じる可能性がある(1-3月期: 前期比▲3.2%)。主因は、自動車部品等の供給不足が緩和傾向にあることで、主力の輸送用機器の持ち直しが続いていることによる。輸送用機器の4-5月平均

は1-3月期対比で+8.5%と早いペースでの回復が続いており、自動車輸出のシェアの大きい米国向け、欧州向けはこうした自動車輸出の持ち直しに支えられる構図が続いている。

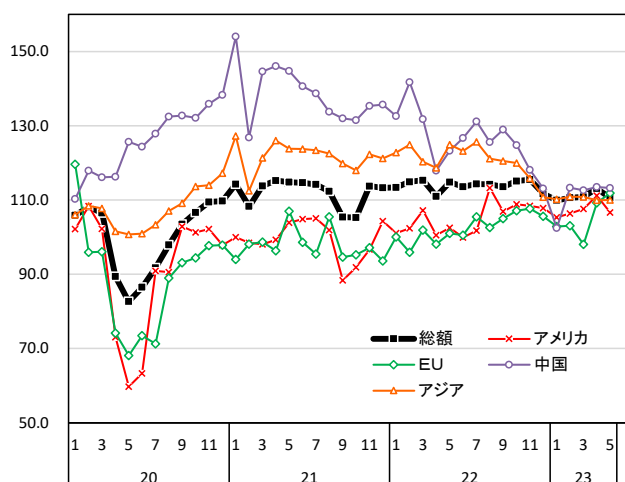
一方、そのほかの財に関しては減少傾向が続いており、実質輸出の基調は弱い。特に、世界的な製造業部門の弱まりから輸送用機械を除く機械輸出は減少傾向が明確化しつつあり、財別に4-5月平均をみると、一般機械が1-3月期対比で▲4.0%（1-3月期：前期比▲3.2%）、電気機器が同▲2.7%

（1-3月期：前期比▲3.6%）とそれぞれ減少傾向が加速している。先行きについても、これまでの金融引き締めの影響で米国や欧州を中心とした景気減速が見込まれる中、実質輸出は当面下振れ圧力の強い状況が続くだろう。

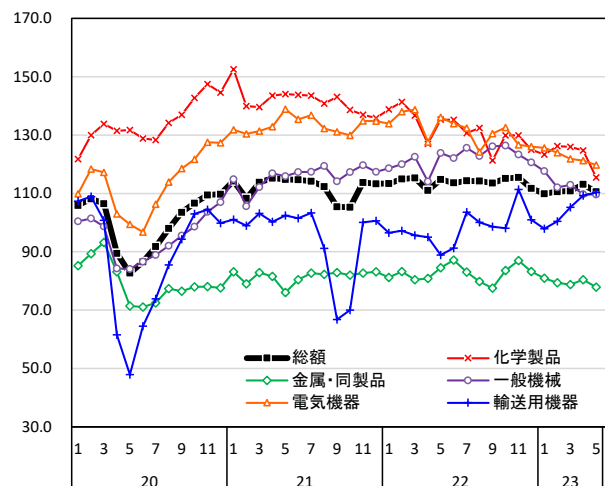
## ○先行きも高水準の赤字が続く

足元では資源価格の下落による輸入金額の減少により、貿易赤字は縮小傾向にある。もともと、足元の原油価格（ドバイ）は振れを伴いながら70～80ドル付近での推移となっており、夏場にかけて輸入金額も下げ止まる可能性が高そうだ。輸出についても、自動車生産の回復は好材料だが、長期化する金融引き締めの影響で米国、欧州を中心とした需要減少と綱引きになる可能性が高く、停滞感の強い状態が続くと見込む。この結果、貿易収支（季節調整値）は今後も高水準の赤字が続くと予想する。

地域別実質輸出（季節調整値）の推移



財別実質輸出（季節調整値）の推移



（出所）財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。